

肌にはなにも触れていない
彼女の身は余分な布を纏わない

なめらかな臍の窪みに

冷気が入りこまないように

腹部 その上だけにお祈り程度の

軽いヴェールを巻き付けている

ゆきすぎたほんの少しの圧力も

その自然の大きさから

どれほど凹ませることのないように

ほんの一寸の緩まりで

彼女のからだからはらりと離れてしまわぬように

バランスのとれたリボンの結びで

皮膚に注ぐのは陽のひかりと

彼女を何度も

かるくあくまでもずっと愉快に攫っていかうとする風のたわむれ
だ

陽の光に乾いていく

彼女のしずかな湿り気は

ぴんと皺のないシーツの清潔を

からだの表面に掛けてゆく

アイロンをゆっくり

けれども焦がし付けないように

シャツをまっすぐに伸ばしてゆくように

しつとりと凹み膨らむ彼女の皮膚を

太陽の零す光の粒粒はもてあそぶように